



中学校第2学年 保健体育科学習指導案

1 単元名 健康な生活と疾病の予防② 3. がんの予防

2 本時のねらい

がんの発生の仕組みとその要因、現状、進行の仕方、進行度と生存率の関係等について学ぶことを通して、がんは生涯のうち二人に一人がかかると推計されること、生活習慣と関係が深いこと、検診による早期発見が重要であることについて理解し、望ましい生活習慣を身に付けようとしたり、がん検診を受診しようとしたりする意欲をもつことができる。(知識)

3 本時の展開

進	学習内容 「・」予想される生徒の思考	◇教師の指導 ※留意事項
導入	<p>1 課題づくり</p> <p>事前アンケート結果を見て、感じたことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怖い病気だと思っているのは私だけではないな。 ・がんになったからといって、必ず命が絶たれるわけではないんだ。 ・怖いからこそ詳しく知っておきたいな。 <p>がんについて正しく理解し、がんを予防するためにできることを考えよう。</p>	<p>◇グラフ化したアンケート結果を具体的な数値で示すことで、がんに対する意識を共有できるようにする。</p> <p>◇著名人のがん経験者のスライドを見ることで、「詳しく知りたい」「生存するためにできることがあれば知りたい」等、目的をもって主体的に追究できるようにする。</p>
展開	<p>2 がんの発生の仕方とその要因</p> <p>①がんとは正常な細胞の遺伝子が傷つき、異常な細胞である「がん細胞」が増殖する疾病である。</p> <p>②がんは、原因の分かっているものとして、「細菌・ウイルス」「生活習慣」「遺伝的要因」の3つがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんは細胞分裂の変異によるものだから、体のいたるところにできるんだな。 ・健康のための生活習慣は、小学校で学んだな。 ・私や家族ががんになりにくくするためにできることは何かな。 <p>3 日本におけるがんの現状</p> <p>①がんになる人は2人に1人であること、平均寿命が長くなるにつれてがんによる死亡数は年々増加し、3人に1人ががんでなくなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんは私や身近な人もかかる可能性があるんだな。 <p>4 がん検診の有効性と受診率の現状</p> <p>①がんは発生から自覚症状が出るまでに10～20年かかることもある。</p> <p>②がんは早期発見によって、種類によっては95%の人が治る可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検診を受け、早めに発見することが大切なんだ。 	<p>◇視覚的に分かりやすいように、スライドを用いて説明する。</p> <p>※要因の一つである「細菌・ウイルス」とは、インフルエンザや新型コロナ等のウイルス感染とは異なることを伝える。</p> <p>※「小児がん」など、生活習慣とは関連のないものや、原因が不明なものもあるため、誤解がないようにする。</p> <p>◇加齢による細胞分裂回数増加や修復・排除などの細胞を正常に保つ働き低下が、がんの罹患数や死亡数の増加につながっていることを押さえる。</p> <p>◇自覚症状が出てからがんは加速度的に大きくなるため、定期的な検診による早期発見や、早期の治療が重要であることを押さえる。</p> <p>◇治療には「手術療法」「放射線療法」「抗がん剤などの化学療法」の3つがあることを押さえる。</p>
まとめ	<p>5 振り返り(学びをつなげる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんは細胞の異常増殖によって、生涯のうち2人に1人がかかる可能性があり、予防や治療には、適切な生活習慣やがん検診などが効果的だと分かった。 ☞具体的に、私や家族ががんになりにくくするためにできることは何かな？もっと詳しく知りたい。 ☞早期発見で95%の人が治る可能性があるのに、受診率が50%以下なのはなぜ？私の家族は健康診断やがん検診を受けているのかな？ 	<p>◇家庭生活を見つめ、「がんの予防」についてさらに詳しく知りたくなったことや疑問に思ったことをまとめ、次時へ意識をつなぐ。</p> <p>【評価規準】知識 がんの現状や、がんの発生原因、経過などについて理解している。</p>

中学校第2学年 道徳科学習指導案

1 主題名 「いのちを考える」D-(12) 生命の尊さ 資料名「奇跡の一週間」(東京書籍)

2 本時のねらい

北村さんの生き方や仲間との交流を通して、生命の尊さ(生命の有限性)を理解し、人は互いに支え合って生き、生かされていることに気づき、自他の生命を大切に生きていく心構えを育てる。

3 本時の展開

進	基本発問と予想される生徒の反応	◇教師の指導 ※留意事項
導入	1 「生きる」とはどのようなことか交流する。 ・今を精一杯に過ごすこと。 ・大変なこと。 ・命があるからこそできること。 ・自分らしく生活すること。	◇「生命の尊さ」の価値についての導入を行う。 ・考えを交流することで、自己を見つめ、「生命」について自己の考えに気付くことができるようにする。
展開 前段	2 資料「奇跡の一週間」を読み、話し合う。 ○キツネのイラストをお願いした時、始めは後悔していたのに、なぜ途中から注文をつけるようにしたのだろう。 ・北村さんの真剣さを感じて自分も刺激を受けた。 ・北村さんに真剣に関わり合えていない自分に気付いた。 ・北村さんは、今この瞬間を大切にしている。自分も全力で立ち向かわないと、北村さんに失礼。 ◎「あの時間は、私にとっても本当にかげがえのないものでした。」と私が考えたのはどうしてだろう。 ・北村さんの頑張りがあったから自分も頑張れた。 ・二人で一緒に作品を作り上げられたと思ったから。 ・みんなの思いが一つになっていたから。 ・今を精一杯に生きることの素晴らしさに気付かせてもらえたから。 ●かけがえのない時間を過ごすことができたのは、私と北村さんだけだろうか。 ・北村さんの奥さんも充実した時を過ごせたと思う。 ・みんなが一丸になって支え合っていた。 ○「生きる」とは、どのようなことなのだろうか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">今を精一杯に生活すること。人は一人で生活しているのではなく、何気ない日頃の生活の中で仲間と支え合っているのだと感じました。お互いが今を精一杯に生きていくと理解し、支え合うことが「生きる」上でとても大切なことだとわかりました。</div>	・私のがん患者に対しての意識が変化したことを押さえる。 ・弱っていく人に対して優しい言葉をかける以外にも、いのちを大切にする方法があることに気付くことができるようにする。 ・板書を指し示すなど、北村さんと接している中で私に起きた変化からつなげて考えられるようにする。 ・板書に構造的に位置付けることで、多面的・多角的に考えることができるようにする。 ・(●深めの発問) そう考えた理由を問い返し、さらに自己を見つめるようにする。 ・かけがえのない時間を過ごしたのは私と北村さんだけではないことに着目させることで、支え合い、影響し合っていたことに気付くことができるようにする。 ・個々に本時の気づきや道徳的価値に対する考えをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">【評価の視点】 「生きること」を「いのち」と関連付けて多面的・多角的に捉えている。</div>
展開 後段	3 これまでの生活を振り返り、「生きる」ということについて、また、これからの生活について自分を見つめる。 ・普段の生活の中での仲間を思った関わりが、一生懸命生きることにつながるのだと感じました。 ・自分のかけがえのない生命を大切に、何気ない仲間との生活で互いに支え合って生活したい。 4 振り返りを交流する。	・自分自身の経験や考えを記入することで、「生きる」ということについて自分自身をじっくりと見つめることができるようにする。 ・自分の経験と関連付けて、振り返ることができている姿を価値付ける。 ・変容が見受けられる生徒を意図的に指名する。
終末	5 教師の説話を聞く。	

※保健体育の学習の後に本時を位置付ける場合、緩和ケア等の学習内容との関連を意識して働きかけ、いのちの尊さについて多面的・多角的に考え、より深く考えることができるようにする。

中学校第2学年 保健体育科学習指導案

1 単元名 健康な生活と疾病の予防② 3. がんの予防 (外部講師：医療関係者)

2 本時のねらい

「がん」の発生要因や予防方法、検診の有効性などについて深く理解することを通して、自分や家族の健康と命の大切さについて考え、がんの予防について自分の考えをもつことができる。
(思考・判断・表現)

3 本時の展開

進	学習内容 「・」予想される生徒の思考	◇教師の指導 ※留意事項
導入	<p>1 課題づくり・講師紹介</p> <p>事前アンケート結果を見て、感じたことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実は、がんのリスクの高い生活をしているかもしれない。がんのリスクを下げる生活習慣は何だろうか？ ・検診にかかる費用や有効性は、実際どうなのかな？ ・専門家の話を聴いて、自分にできることを考えよう。 ・今日は、外部講師に直接質問できるよい機会だ。 <p>がんについて正しく理解し、がんを予防するためにできることを考えよう。</p>	<p>◇前時学んだことや事前アンケートについて振り返ること、「がん」について抱いた疑問や予防法について学ぶことの必然をもつことができるようにする。</p> <p>※事前アンケートと関わらせて外部講師にお話いただくことで、より深く学ぶことへの期待感を高められるようにする。</p>
展開	<p>2 調べ学習</p> <p>がん予防について家族向けの改善プランを立てよう。</p> <p>①「がん検診」受診率向上プラン ②がんリスク低減生活習慣改善プラン</p> <p>2つのチームに分かれて、問題点の洗い出しと、家族へ向けた改善プランの立案を行う。</p> <p>①問題点と改善プラン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世論調査の「がん検診未受診の理由」に、がん検診受診率向上につながるヒントがありそうだ。 ・私の家族は、学校でがんについて学んでこなかった世代だから、私が正しい情報を家族に伝えるぞ。 <p>②問題点と改善プラン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんの種類によって、リスクを下げるために気を付けるべき生活習慣が違うんだな。 ・我が家は、〇〇の傾向があるから、〇〇を増やして(減らして)、リスクを下げるように提案しよう。 <p>3 各グループの発表</p> <p>他チームの発表を聞き、多面的・多角的に考える。</p> <p>4 講師からの助言</p> <p>がんの予防に効果的な取組について理解を深める。</p>	<p>◇事前アンケートから把握した生徒の疑問や不安に感じることなど、あらかじめ講師に伝えておき、グループの調べ学習に意図的に関わっていただくようにする。</p> <p>◇調べる内容ごとに参考WEBサイトをまとめておき、情報の整理により多くの時間を使うことができるようにする。</p> <p>参考：国立がん研究センター ：がん情報サービス</p> <p>◇具体的な場面を想起できるように問いかけ、自分の生活とつなげながら考えることができるようにする。</p> <p>※家庭の事情によって現状では難しいこともあるため、「すぐに取り組みたいこと」「今後大切にしたいこと」に整理して考えるようにする。</p> <p>◇全体で交流した内容に対して、講師から感想や助言をしていただく。</p>
まとめ	<p>5 振り返り(学びをつなげる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんの予防には、適切な生活習慣や早期発見のためのがん検診などが効果的だということが詳しくわかった。 ☞がんになるリスクが高くなるのに、私の家族は喫煙をしている。私や家族が「がん」になりにくくするために、今晚、禁煙について家族に話をしよう。 ☞早期発見すれば95%の人が治る可能性があるのに、受診率が50%以下なんて信じられない。案内のはがきが届いていたから、がん検診を受けるように話をしよう。そして、私も時期が来たら必ず検診を受けよう。 	<p>◇がんの予防について家庭で話すことをワークシートにまとめることによって、自分や家族の実態を踏まえ、健康の大切さについて主体的に考えることができるようにする。</p> <p>【評価規準】 思考・判断・表現 がんの予防方法を基に自分や家族の生活を振り返り、がんの予防のために取り組みたいことをまとめている。</p>

中学校第2学年 学級活動学習指導案

1 題材名 がんの治療で大切なこと (外部講師：がん経験者、医療関係者)

2 本時のねらい

自分や身近な人が「がん」になった場合を想定した意見交換を通して、保健学習(がんの疾病概念や予防、早期発見の大切さ等)をもとに、自分にできることを考えることができる。

(思考・判断・表現)

3 本時の展開

進	学習内容 「・」予想される生徒の思考	◇教師の指導 ※留意事項
導入	<p>1 課題づくり・講師紹介</p> <p>○自分や身近な人が「がん」と知らされたとき、どのようなことを思うのか考える。(グループでの交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見なら95%以上が治ると言われているけれど、自分は治るのだろうか不安になる。 ・今の生活が続けられなくなると思うから、とても不安。 <p>○「緩和ケア」について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不安や心のつらさを和らげるための医療が「緩和ケア」なのか。これからのために、詳しく知りたいな。 <p>自分や身近な人が「がん」になったとき、自分や身近な人のためにできることを考えよう。</p>	<p>◇既習の内容を簡潔に振り返ったうえで「もし自分や身近な人が『がん』と診断されたら？」と問うことで、自分事として想像し、主体的に考えることができるようにする。</p> <p>※外部講師を紹介し、緩和ケアについて説明するとともに、漠然とした不安や想像した心のつらさについて一緒に考えてもらえることを伝えることで、学習への意欲を高める。</p>
展開	<p>2 家族や身近な人が「がん」と知ったとき、どのような思い、接するか、理由を含めて考える。 [グループ交流] → [全体交流] → [講師の助言]</p> <p>ケース①がんの経過初期における緩和ケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の痛みやつらさ、心のつらさ、社会的なつらさがあるんだな。私は、心のつらさの支えになりたいな。 ・自分ができることを増やして、負担を減らして、治療に専念できるように支えたいな。 <p>ケース②がんの経過後期における緩和ケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの分野の専門家が、チームで患者とその家族を支援する仕組みがあるんだな。 ・「自分らしく生き抜く」とは、どういうことなのかな。 ・治療中も、自分らしい生活ができるように支えたい。 <p>3 外部講師の話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治療を理解し、自分で選択することが大切なんだな。 ・つらい思いをしたくないしさせたくない。だから、がん検診の大切さを家で話そう。 	<p>※身近な人を「がん」で亡くしたり、現在、家族が闘病中の生徒がいる場合、本人及び保護者に事前説明をするとともに、授業中は本人の様子を観察するなど配慮する。</p> <p>◇2つのケース(「がんの経過状況」、「自分との関係」、「家族構成等の状況」)を例示し、自分との関係を想定して考えることによって、自分事として主体的に考えることができるようにする。</p> <p>※共感的な理解が深まるように、外部講師の協力を得て、同世代の事例や、生徒と同世代の子どもをもつ親世代のケースを取り上げる。</p> <p>◇「支えたい」「話を聞いてあげたい」等の具体的な行動を話している生徒に対して、その理由を問いかけることによって、内面にある思いに向き合うことができるようにする。</p>
まとめ	<p>4 振り返り(学びをつなげる)</p> <p>○本時を振り返り、自分や身近な人ががんと診断された場合に、自分にできそうなことをまとめる。</p> <p>☞相手の思いに寄り添い、自分にできることをやっていきたい。そのためにも、日頃から自分の思いを伝え合う関係を築いていきたい。</p> <p>☞私の家族は、がん検診を受けているのかな。今日考えたことを話して、もし検診を受けていなかったら、家族のためにも検診を受けるように説得しよう。</p>	<p>◇学習したことを家庭で話し、感想をもらうようにすることで、健康の大切さについてより深く考えることができるようにする。</p> <p>【評価規準】思考・判断・表現 がんと診断された場合に自分にできそうなことや、自分や家族の健康のために大切にしたいことを、ワークシートに記述している。</p>

中学校第2学年 学級活動学習指導案

1 題材名 がん患者への理解と共生 (外部講師：がん経験者、医療関係者)

2 本時のねらい

自分や身近な人が「がん」になった場合を想定した意見交換を通して、保健学習(がんの疾病概念や予防、早期発見の大切さ等)をもとに自分にできることを考えることができる。

(思考・判断・表現)

3 本時の展開

進	学習内容 「・」予想される生徒の思考	◇教師の指導 ※留意事項
導入	<p>1 課題づくり・講師紹介</p> <p>○自分が「がん」と診断されたら知りたいかどうか、理由を含めて考える。(グループでの交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> 種類によっては、早期発見で95%以上が治るから、早く治療するためにも知りたい。 自分ががんになるなんて考えたこともなかった。とても怖いし、不安だし、ショック。知りたくないというか、受け止める自信がない。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分や身近な人が「がん」になったとき、自分や身近な人のためにできることを考えよう。</p>	<p>◇生涯のうち2人に1人が何らかの「がん」になると推計されるなど、既習の内容を押さえたうえで「もし自分が『がん』と診断されたら？」と問うことで、自分事として主体的に考えることができるようにする。</p> <p>※外部講師(専門医・がん経験者)を紹介し、漠然とした不安について一緒に考えてもらえることを伝えることで、不安を和らげる。</p>
展開	<p>2 家族や身近な人が「がん」と診断されたら、どのように関わっていくか、理由を含めて考える。(グループおよび全体での交流)</p> <p>[グループ] → [全体]</p> <ul style="list-style-type: none"> できるだけ、普段通りの生活ができるように接する。 自分ができることを増やして、負担を減らして、治療に専念できるようにする。とにかく支えになりたい。 私も～さんと同じことを考えたな。 そうか、確かに自分だったら～してほしいと思うな。 <p>3 がん経験者や専門医の話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「がん」だとわかったときには、～だと思っただな。 もし私の家族が「がん」だとわかたら、～をして支えになりたい。 <p>4 自分が「がん」と診断されたら、周りの人や家族に伝えるか・伝えないか考える。(グループ及び全体での交流)</p> <p>[グループ] → [全体]</p> <ul style="list-style-type: none"> 心配をさせたくないから、黙っていようかな。 逆の立場だったら支えになりたいと思う。だからこそ、私は伝える。 一人で抱えることは、あまりにも不安が大きくて考えられない。家族と一緒に治療したい。 	<p>◇「支えたい」「話を聞いてあげたい」等の具体的な行動を話している生徒に対して、その理由を問いかけることによって、内面にある思いに向き合うことができるようにする。</p> <p>※身近な人を「がん」で亡くしたり、現在、家族が闘病中の生徒がいたりする場合、様子を観察するなど配慮する。</p> <p>◇映像教材「がんと生きる」を視聴し、がん経験者の思いを知ることで、自分や身近な人が「がん」になったとき、自分や身近な人のためにできることを具体的に考えることができるようにする。</p> <p>※がん経験者にお話をさせていただける場合、</p> <p>①「がん」だとわかったときのこと ②治療のときに支えになったこと ③今、大切にしていること</p> <p>の3点について話をさせていただく。</p>
まとめ	<p>5 振り返り(学びをつなげる)</p> <p>○本時を振り返り、自分や身近な人ががんと診断された場合に、自分にできそうなことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞治る可能性がゼロではないから、その可能性を高め、治療に専念できるように、～をして、不安や負担を軽くしてあげたい。 ☞まずは、家族とがんについて話をし、がん検診や健康診断を必ず受けるように説得したい。 	<p>◇外部講師(がん経験者・専門医)から感想や助言をいただく。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【評価規準】思考・判断・表現 自分や身近な人ががんと診断された場合にどう行動するかを、保健体育科での学習をもとにワークシートに記述したり、発表したりしている。</p>

高等学校第1学年 保健体育科学習指導案

1 単元名 現代社会と健康 がんの予防と回復

2 本時の目標

- (1) がんのリスクを軽減し予防するためには、調和のとれた健康的な生活を続けることや、がん検診を受診することが必要であることを理解する。(知識)
 (2) がんのリスクを軽減し予防するための生活や行動を考える。(思考・判断・表現)

3 本時の展開

避	学習内容	学習活動 「・」 予想される生徒の思考	◇教師の指導 等
導入	1. がんの種類について理解する。	○がんにはどんな種類があるか、知っていることを発表する。 ・肺がん ・大腸がん ・胃がん ・乳がん ・子宮頸がん	◇発表後、日本の主ながんの罹患数と死亡数を提示する。
がんになるリスクを軽減し、予防するための生活や行動について考えよう。			
展開	2. がんのリスクを減らす行動を考える。 3. がん検診の必要性について考える。	○がんになるリスクを減らす行動を考える。 <グループ交流> ・バランスよく食べるようにしたい。 ・適正体重を維持したい。 ・将来、たばこは吸わないようにしたい。 ○がん検診の必要性について考える。 ・多くのがんは、早期に発見すれば、約9割が治る。 ・自覚症状がない期間に検診によって早期発見することが重要だ。	◇「がんを防ぐための新12か条」を提示する。 ※がんの原因は生活習慣だけでないことを押さえる。 ◇がんの病期別5年相対生存率のグラフを提示する。 ※がんの進行速度、自覚症状が現れる年数について押さえる。
	4. がんの治療法について理解する。	○なぜがん検診の受診率が低いか考える。 <グループ交流> ・受ける時間がない、自分は大丈夫だと思う気持ちもわかるが、早期発見受診すべき。 ○がんになった場合の治療法について考える。 <調べ学習>タブレットを活用して調べる。 ・主に化学療法、放射線療法、手術療法があり、それぞれの治療法には特徴がある。 ・緩和ケアというものもある。	◇がん検診の受診率のグラフを提示する。 ※生涯の内、二人に一人はがんにかかることを再度押さえる。 ◇インフォームド・コンセント、セカンド・オピニオンについて説明し、自分で治療法を選択する大切さについて伝える。
まとめ	5. 本時のまとめ	○本時で学んだことをまとめる。 ・がん検診の必要性がわかったので、家族にも伝えたい。 ○次の時間、外部講師(医師やがん経験者)に聞きたいことをまとめる。 ・治療法の選択について詳しく知りたい。 ・家族ががんになったら、自分たちにできることはあるのか聞きたい。	◇学習内容を振り返るとともに、もっと詳しく知りたいと思った内容をまとめ、次時につなぐ。 【評価基準】知識 がんのリスクを軽減し予防するために必要なことをまとめている。

高等学校第1学年 保健体育科学習指導案

1 単元名 現代社会と健康 がんの予防と回復 (外部講師：医師、看護師)

2 本時の目標

がんの治療法を選択する上で大切なことは何か考えることを通して、がん患者の思いや、がんと共に生きる生活について理解を深めることができる。(思考・判断・表現)

3 本時の展開

進	学習内容	学習活動 「・」 予想される生徒の思考	◇教師の指導 等
導入	1. がんの治療法について理解する。	○がんの治療法の種類について発表する。 ・手術療法 ・放射線療法 ・化学療法 ・緩和ケアというのもあった。	◇始めに、本時の講師を紹介する。
	がんを治療していく上で大切なことは何か学び、がんとの向き合い方を考えよう。		
展開	2. がんの治療法をどのように選択するか考える。 3. 緩和ケアについて考える。	○がんになった場合、治療法を選択する上で、何を重要視するか考える。 <グループ交流> ①45歳既婚 子ども2人 家族を養っている時期 ②30歳独身 仕事に力を入れている時期 ③20歳学生 オリンピックに出場決定後 ●講師から治療で大切なことを聞く。 ・がんの治療は、後悔しないように納得できるまで医師と話し合い、最終的に自分で選択する。(インフォームドコンセント) ・治療方針は医師によって異なることがあるため、別の医師に意見を聞いてもよい。(セカンド・オピニオン) ・実際に関わった患者の事例を聞く。 ○もし自分ががんになったら、不安になることはないか考える。 <グループ交流> ・痛みや吐き気など、治療中も苦しいと思う。 ・治療費がいくらかかるか心配になる。 ・もう今まで通りの生活はできないだろうと悩む。 ●講師から緩和ケアについて話を聞く。 ・緩和ケアは、終末期だけでなく、がんと診断されたときから始まる。 ・単にがんを治すだけでなく、その人らしく生きるための支援である。	◇①～③をグループに分けて考え、その後、全体交流を行う。 ※状況や考え方によって、治療法も異なってくることを理解できるようにする。 ◇病期、検査、治療について十分理解した上で、医師ではなく、自分が決定することを押さえる。 ◇がんの種類や進行度によって、組み合わせることもあることを押さえる。 ◇体の苦痛と心の苦痛の2つに整理してまとめる。 ◇相談窓口があることを伝える。 ◇治療と平行して緩和ケアを行い、状況に合わせて割合を変えていくことを押さえる。
まとめ	4. 本時のまとめ	○本時で学んだことをまとめる。 ・がんになっても、がん向き合い、自分らしく生きていくことが大切である。 ●医師としての思いを聞く。	◇がん治療は、今後の生活や生き方も踏まえて選択すること、生活の質(QOL)の維持向上も大切であることを押さえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【評価規準】 思考・判断・表現 がんの治療法を選択する上で大切にしたいことについて、まとめている。</div>

高等学校第1学年 特別活動学習指導案

1 単元名 がん患者への理解と共生 (外部講師：がん経験者、医療関係者)

2 本時の目標

がんにかかっても、多くの人が治療をしながら生活していることを知り、がん患者への理解を深め、支え合って生きていくために大切なことを考える。(思考・判断・表現)

3 本時の展開

進	学習内容	学習活動 「・」 予想される生徒の思考	◇教師の指導 等
導入	1. がんの問題を自分事としてとらえる。	○日本人が「がん」になる確率を振り返る。 ・二人に一人はかかる可能性がある。 ・自分や家族、身近な人もなる可能性は高い。	◇始めに、本時の講師を紹介する。
	もし身近な人ががんになったら、どうすればよいだろう。		
展開	2. 身近な人ががんになった時自分にできることはないか考える。	○もし、友人や家族ががんにかかったら、どんなことをしてあげたいか、具体的な事例を基に考える。 <グループ交流> ・今までどおり接したい。 ・たくさん会話をしたい。 ○もし今自分のがんと診断されたら、どんな気持ちになるか考える。 ・なぜ自分のがんになってしまったのか。 ・もう先が見えない。 ・不安しかない。 ●講師から、がんになったときや治療しているときに支えとなったのは何か話を聞く。 ○事例や講師の話聞いて考えたことを交流する。	※がんになった経験のある生徒や、身近に闘病中の家族がいる場合は、事前に学習内容を伝えるなど、配慮する。 ◇がんに関する相談窓口があることを伝える。 ※講師の話も一例であり、コミュニケーションをとり、何を求めているか知り、寄り添う姿勢が大切であることを伝える。
	3. がん患者が暮らしやすい社会について考える。	○がん患者が暮らしやすい社会とはどんな社会か考える。(就職した自分をイメージして考える) <グループ交流> ・がんについて正しく理解し、偏見や差別を受けない社会。 ・治療しながらも、仕事が続けられるような理解のある職場であってほしい。	◇がんの治療をしながら、日常生活を送っている人は増えていることを押さえる。
まとめ	4. 本時のまとめ	○本時で学んだことをまとめ、発表する。 ・友達や家族ががんになっても、自分のできることをして支えていきたい。 ・がん患者が働きやすい社会を作っていきたい。 ●生徒が発表した内容について、がん経験者としての思いを聞く。	◇がんを正しく理解し、自分のできることを考え行動していくことが大切であることを伝える。 【評価規準】 思考・判断・表現 自分や身近な人ががんになった場合にどう行動するか、まとめている。